

胆泥症について

胆汁のうっ滞や高脂血症、肝機能障害により、胆嚢は著明な拡張（胆嚢拡張症）や濃厚な胆汁の貯留（胆泥症）を呈します。軽症の場合は、ほぼ無症候性ですが、肝臓は「沈黙の臓器」と言われる様に、発症した時点で肝機能の約5～8割は障害を受けていることが多いため、症状が無くとも危険である可能性があります。また、現在落ち着いていても、重度の疾患の予備軍であることは間違いありません。

胆泥の悪化による胆管閉塞や胆嚢破裂、腹膜炎、胆嚢炎、胆管肝炎、腫瘍など胆嚢に関する疾患は、すべて緊急を要する疾患であり、生命に関わる状態に陥ります。

1、原因

生活環境：食事の量や質、肥満、運動量、老化
体質、犬種（特にシーズー、ダックス、シルティ など）
甲状腺機能低下症、肝機能低下・障害
糖尿病、膵炎
胆道系疾患
上記原因による高脂血症
合併症
薬剤誘発

2、症状

嘔吐・下痢
発熱
元気・食欲の低下・廃絶
腹部疼痛
腹囲膨満・腹圧上昇
黄疸
腹膜炎・血圧低下・ショック

3、検査

血液検査：貧血、血小板減少、白血球増加
生化学検査：ALP、GGT、TG、TCHO 増加
肝酵素上昇
他 基礎疾患の数値異常など
X線検査：他の疾患の発見
肝腫大、胆嚢の陰影・胆石

肝・胆嚢腫瘍

腹膜炎

超音波検査：胆嚢の形状・大きさ・壁の状態

胆泥・胆石・腫瘤の状態

胆管

肝臓

他 胆嚢造影、生検、CT、MRI など

4、治療

ここで問題なのは、どの時点で治療をはじめるか、ということです。今後、進行が予測されますが、中にはこのまま維持される例も少なくありません。逆に、すぐに急性化して生命の危険にさらされる場合もあります。

基本的には、内科療法が勧められますが、治療には限界があり、外科手術が唯一の治療法になることも少なくありません。当院での方針は、食事療法を基本に、極力最良の状態を内科治療で維持することに努め、最悪の場合外科手術を行なうというものです。ただし、進行した結果の手術は、非常に危険を伴うため、早期手術を実施する場合があります。

生活環境の改善：質の良い適量の食事（特に低脂肪食）、運動

抗生物質の投与：特に広域・嫌気性菌に効果のあるもの

強肝剤・利胆剤

抗高脂血症薬：肝機能障害に注意

漢方：荷花掌、大柴胡湯など

甲状腺ホルモン

ステロイド：特に胆嚢の炎症、免疫原性炎症

基礎疾患の治療

外科手術：胆嚢十二指腸吻合術、胆嚢摘出術